

捕獲等事業評価シート

(イノシシ)

富山県生活環境文化部自然保護課

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	黒部市区域、富山市区域、高岡市区域、砺波市区域、南砺市区域、氷見市区域、小矢部市区域
事業主体	富山県生活環境文化部自然保護課
事業実施期間	令和6年5月18日～令和7年3月10日
捕獲手法	くくりわな、かこいわな、巻き狩り
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	37,715千円(※)

(※) 捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 500 頭	くくりわな：232 頭 かこいわな：37 頭 巻き狩り：30 頭 計 299 頭	捕獲目標の達成率は60%であった。目標が達成できなかった理由として、豚熱の影響により個体密度が低下していることなどが考えられる。
捕獲作業量	くくりわな：46,500 台日 かこいわな：1,395 台日 巻き狩り：20 回	くくりわな：40,922 台日 かこいわな：1,233 台日 巻き狩り：45 回	くくりわなの作業量が少なかったものの、巻き狩りの回数を増やして対応し、ほぼ計画どおりの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	くくりわな 0.48 頭/100 台日 かこいわな 2.7 頭/100 台日 巻き狩り 0.089 頭/人日 ※前年度事業の実績	くくりわな 0.57 頭/100 台日 かこいわな 3.0 頭/100 台日 巻き狩り 0.080 頭/人日	わなの捕獲効率が前年度から増加したものの、巻き狩りの捕獲効率は減少した。巻き狩りについてはニホンジカの捕獲効率が増加しており、ニホンジカが優先して捕獲された可能性が考えられる。
事業に要した人員数	チーム員数 計 169 人 ※前年度事業の実績	チーム員数 計 154 人	前年度よりチーム員数が減少した。高齢化などの理由で活動を休止したチームがあった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	計画どおり事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画に記載したとおり、チーム毎に指定の場所で埋設、自治体の焼却施設での焼却または自家消費	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	計画どおり事業は遂行された。

環境への影響への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・非鉛製銃弾を使用 ・クマ等の痕跡が見られた場合はわなを移設し、錯誤捕獲を防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・非鉛製銃弾を使用 ・クマ等の痕跡が見られた場合はわなを移設し、錯誤捕獲を防止 	計画どおり事業は遂行された。
捕獲個体の属性	<ul style="list-style-type: none"> ・オス 142 頭、メス 127 頭 ・成獣 144 頭、幼獣 125 頭 ※前年度事業の実績 	<ul style="list-style-type: none"> ・オス 145 頭、メス 154 頭 ・成獣 177 頭、幼獣 122 頭 	前年度よりもメスの割合が増えており、定着が進んでいることが考えられる。

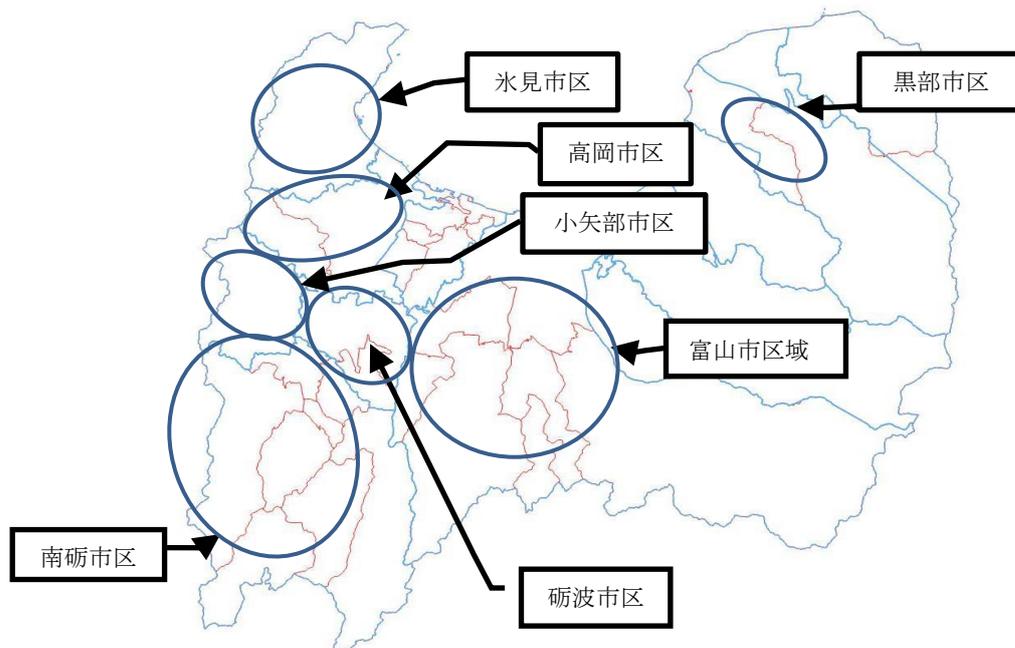


図1 事業実施地域

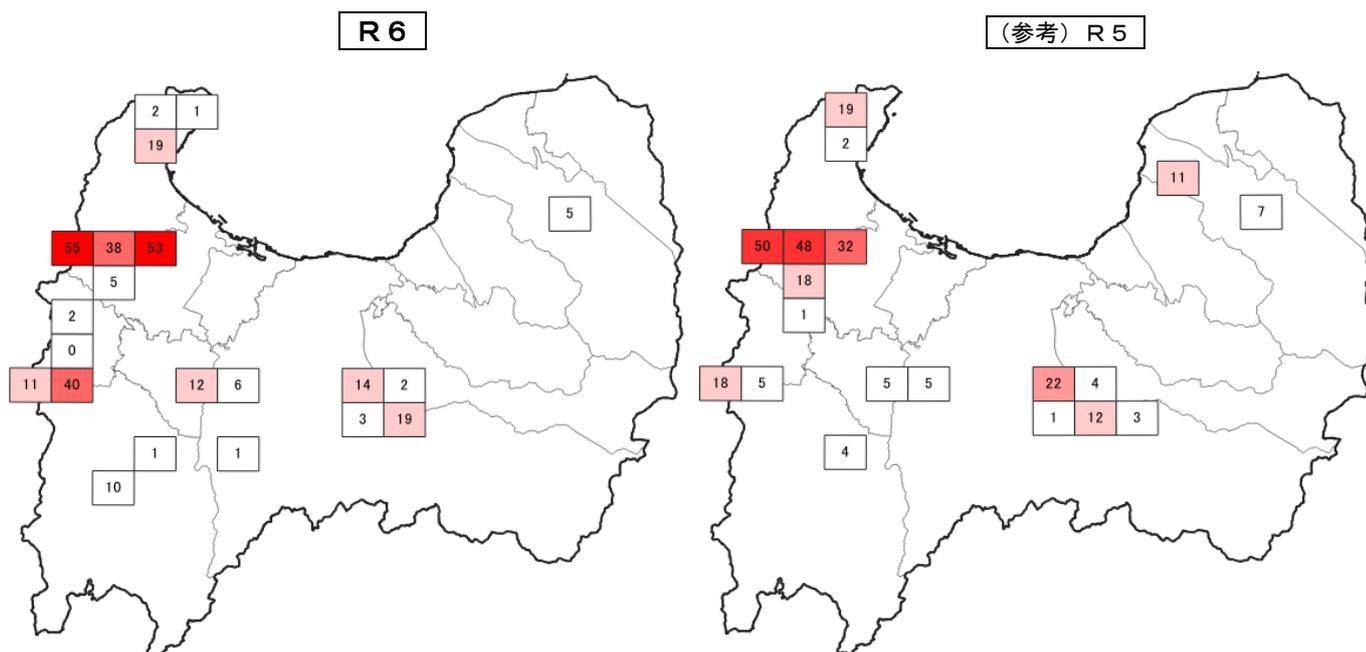


図2 イノシシの捕獲数及び捕獲地点（5kmメッシュ）【わな+銃】

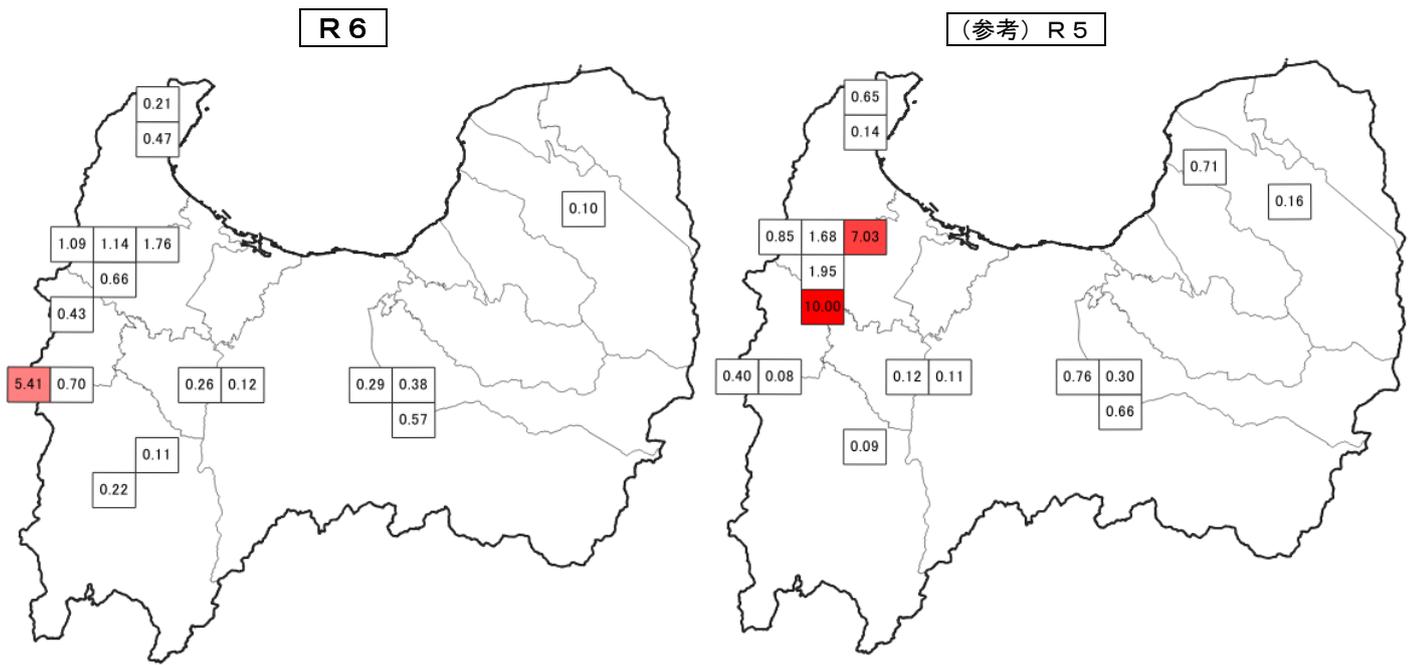


図3 イノシシのCPUE* (わな、5kmメッシュ)
 (*わな 100 台当たりの捕獲数)

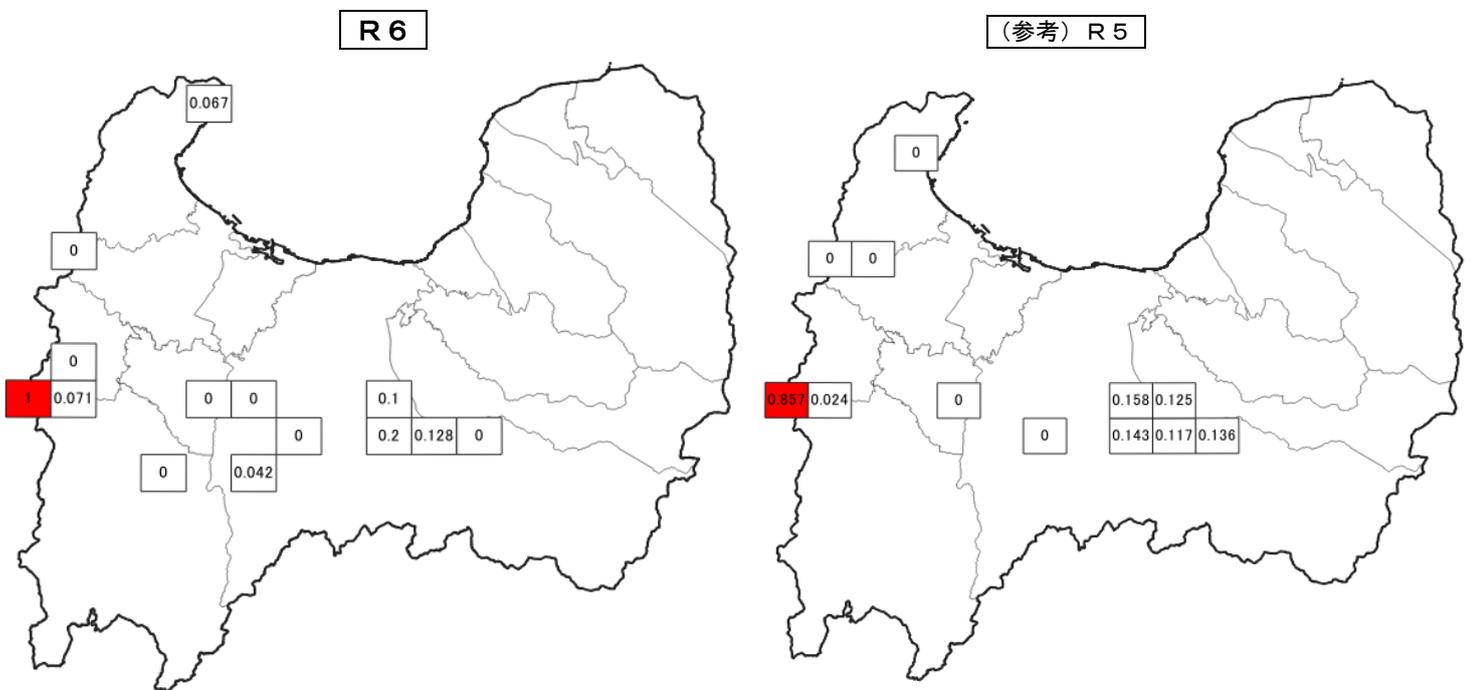


図4 イノシシのCPUE* (銃、5kmメッシュ)
 (*出猟人日当たりの捕獲数)

R 6

(参考) R 5

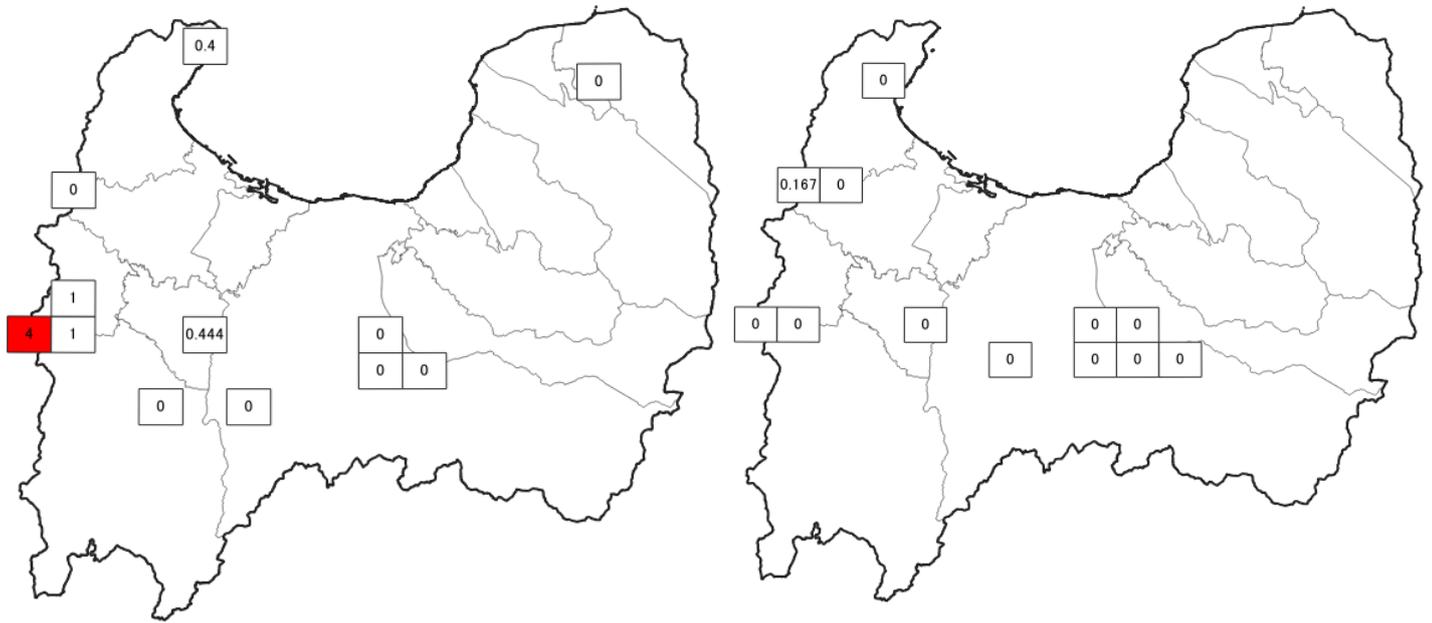


図5 イノシシのSPUE※(5kmメッシュ)
(※出猟人日当たりの目撃数)

表1 イノシシの月別・チーム別の捕獲数など

		大山		八尾		福光		城端		黒部		宇奈月		高岡		福岡		砺波		氷見		小矢部		計	
		R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
捕獲数	4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	2
	6月	1	6	1	1	0	1	3	1	0	0	0	0	3	2	10	9	3	0	0	2	4	0	24	22
	7月	2	9	1	1	0	3	1	0	0	0	0	4	8	5	9	1	1	6	6	10	1	29	38	
	8月	4	4	1	1	0	3	1	1	0	0	1	4	17	8	19	27	5	0	6	1	10	0	64	49
	9月	3	6	1	1	5	2	7	1	0	7	1	2	19	19	16	23	1	1	6	6	5	2	64	70
	10月	5	1	2	1	4	1	2	2	0	4	2	1	17	9	22	24	1	3	3	6	9	1	67	53
	11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	5	13	5	1	0	0	0	0	0	19	10
	12月	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	10
	1月	11	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	8
	2月	12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	16	6
3月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	
	計	38	44	7	5	10	12	11	4	0	11	5	7	64	51	87	98	12	5	22	21	43	11	299	269
猟具別捕獲数	くくりわな	15	25	6	5	-	8	11	4	-	11	5	4	41	35	83	91	12	5	21	16	38	4	232	208
	罠いわな	0	1	-	-	10	4	-	-	-	0	0	3	23	16	4	7	0	0	0	5	0	0	37	36
	銃	23	18	1	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1	0	5	7	30	25
作業量 ※1	くくりわな	3,199	3,876	4,928	4,660	-	2,904	4,470	4,470	-	1,490	4,260	4,320	3,271	4,201	5,665	5,685	5,548	4,220	3,990	4,230	5,591	4,650	40,922	44,706
	罠いわな	127	96	-	-	157	142	-	-	-	68	145	161	163	142	187	185	176	140	111	124	167	67	1,233	1,125
	銃	183	128	55	57	-	10	-	-	-	-	-	-	-	4	33	13	22	17	15	12	58	49	376	280
捕獲効率 CPUE ※2	くくりわな	0.47	0.64	0.12	0.11	-	0.28	0.25	0.09	-	0.74	0.12	0.09	1.25	0.83	1.47	1.60	0.22	0.12	0.53	0.38	0.68	0.09	0.57	0.47
	罠いわな	0.00	1.04	-	-	6.37	2.82	-	-	-	0.00	0.00	1.86	14.11	11.27	2.14	3.78	0.00	0.00	0.00	4.03	0.00	0.00	3.00	3.20
	銃	0.13	0.14	0.02	0.00	-	-	0.00	-	-	-	-	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.09	0.14	0.08	0.09

※1 単位 わな:台日、銃:人日

※2 単位 わな:頭/100台日、銃:頭/人日

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

黒部市区域、富山市区域、高岡市区域、砺波市区域、南砺市区域、氷見市区域、小矢部市区域

■ 出沒（密度）

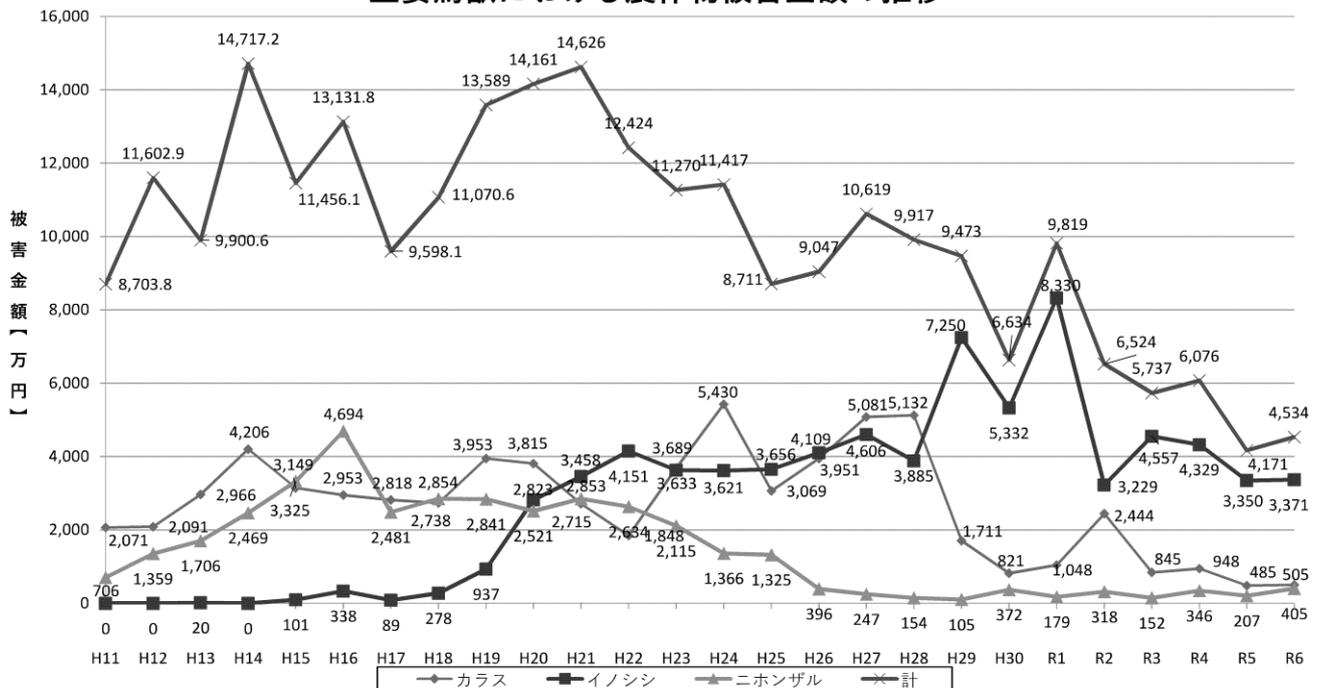
評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	—
事業実施後もしくは事業終盤・後半	—
評価	—

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	富山県でのイノシシによる農作物被害金額 令和5年度 3,350万円
事業実施後もしくは事業終盤・後半	富山県でのイノシシによる農作物被害金額 令和6年度 3,371万円
評価	単年度での評価は難しいため、今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を測定する。

主要鳥獣における農作物被害金額の推移

(令和6年度実績)



STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	評価：管理計画で設定している捕獲目標である 500 頭には達しなかった。
	改善点：豚熱や堅果類の凶作の影響等も見定めながら、捕獲従事者を対象とした捕獲技術研修を実施するなどして、捕獲数の目標達成を目指す。
【実施期間】	評価：計画どおりの期間で実施した。
	改善点：－
【実施位置】	評価：一部地域において、捕獲専門チーム員が減少したために捕獲を実施できなかった地域があったものの、おおむね計画どおりの位置で実施した。
	改善点：富山県が新たに認定した認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施する。
【捕獲手法】	評価：計画どおりの手法で実施した。
	改善点：－
【捕獲コスト】	評価：前年度と比較して捕獲数が増加したため、1 頭あたりの捕獲コストは減少した。
	改善点：－
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：一部地域において、捕獲専門チーム員が減少したために捕獲を実施できなかった地域があったものの、おおむね計画どおりの体制で実施した。
	改善点：富山県で新たに認定した認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施する。
【個体処分】	評価：計画どおり実施した（埋設、自治体の焼却施設での焼却、自家消費）。
	改善点：－
【環境配慮】	評価：計画どおり実施した（非鉛製銃弾の使用、クマの錯誤捕獲防止のためのわな移設など）。
	改善点：－
【安全管理】	評価：計画どおり安全管理教育等を実施した。
	改善点：－
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
①かこいわなの配置	
かこいわなについて、従来から基本的に各捕獲専門チームの活動地域に 1 基ずつ配置する体制としていたが、地域によって捕獲効率が差が生じており、捕獲効率が低い地域については個体が学習している可能性があった。	
改善点として、令和 7 年度より、各チームに 1 基ずつ配置する体制を見直し、かこいわなの捕獲効率が低いチームには複数基を配置する。また、かこいわなの捕獲効率が低いチームについて、かこいわなを使用せず、くくりわなの基数を増やすこととする。	
②くくりわなの設置方法	
くくりわなの設置について、根付けのワイヤーなどが見えていたり、またぎ棒を多く仕掛けることなど不自然な設置になってしまっているケースが多く見られた。	
改善点として、鳥獣プロデータバンクに登録されている捕獲コーディネーターを講師として、くくりわなの捕獲技術向上のための研修を対象に実施する。	

4. 全体評価

捕獲目標数には達しなかったものの、捕獲数は前年度より増加しており、捕獲コストも下がっていること、また、その他の項目についても概ね計画どおりに実施できたことから、全体評価としては、本事業の目的は概ね達成できた。

次年度事業については、わなの配置の見直しや捕獲技術向上のための研修を行うことで、捕獲目標数の達成を目指す。また、捕獲専門チーム員の減少により捕獲ができなくなった地域については、認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施することで、県全体の捕獲体制を維持するとともに、個体数の増加が懸念される地域などを新たな捕獲場所として拡大していくこととする。

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	令和6年度の捕獲目標数 7,500 頭 (有害捕獲及び狩猟を含む。)
寄与状況の評価	<p>有害捕獲及び狩猟を含めた令和6年度の全ての捕獲実績は5,748 頭であり、目標の77%にとどまり、達成できなかった。</p> <p>また、そのうち本事業の捕獲目標は500 頭であり、実績は299 頭だったことから、こちらも目標の60%であり達成できなかった。</p> <p>令和2年度以降は、豚熱等の影響による生息数が減少したと考えられ、捕獲数についてもそれまでの半分程度となり、目標を達成できない状況が続いている。ただし、令和2年度以降の捕獲数は増加傾向となっている。</p> <p>捕獲専門チームに属する154名の多くは各地域で有害捕獲も実施しており、捕獲専門チームで習得した捕獲技術は有害捕獲としての捕獲をする際にも活用され、一定の寄与はあると考えられる。</p>